

第1回あおり立志挑戦塾

平成23年5月28日(土)~29日(日) 於:青森市浅虫温泉「帰帆荘」

□天明塾長挨拶 「志」について語る

改めまして、皆さん、こんにちは。

ようこそ、「あおり立志挑戦塾」に御参加いただきありがとうございます。野田名誉塾長に引き続き、今年から塾長をさせていただく天明です。毎回、1日目に一流の講師をお招きし、それをもとにディスカッションをし、翌日発表をしていただく。これを6回繰り返し、最後にその成果を知事の前で報告させていただく、そのキーワードは「志」であり、塾生一人ひとりの成長を通して青森を元気にしていく、そして青森から世界に情報発信をしていく、そういうことがねらいです。

今回、皆さんの面接でのお話や、志望の動機を読ませていただく中で幾つか目についたのは、今回の大震災で、本当にこのままの生き方でいいのだろうか、もう一度自分の在り方、生き方を見直しして、社会のどんな役に立てるかということ真剣に考えてみたい、そのために応募したといった意見でした。

今、国難と言われているけれど、今回の震災はある意味で千載一遇のチャンスじゃないかと。東北に来てこう言ったらそれこそ怒られるかもしれない。僕は被災して2週間後、仙台、石巻に入ったり、被災地に3回か4回入っているけれど、やっぱり今がチャンスだなとつくづく思う。それは、生き残った人の使命とは何かということ真剣に考えるきっかけを与えられたということです。



垂示思想というのが日本にある、神道でも仏教でも言うけど、神仏は言葉を持たない、だから苦難をもって人に教え示す、垂れ示すと言う思想。苦難というのは災害だとか事故だとか病気でもって神仏は教えてくれる。僕は震災も神仏の垂示だと思う時がある。では何を教えられ示されているのか。それは、やはり最近色々言われるように、科学万能で人間はどうも驕り高ぶってしまったとか、巨大な相互依存型システムの中でどうも本来の人間の知恵とか考えとかを忘れてしまったとか、日本古来の伝統だとか文化をしっかりと継承することを忘れてしまったとか、贅沢とか拝金主義とか経済至上主義だと

か、そういうことが間違っている、もう一度本当の、本来の正しい道に立ち戻りなさい、そういうことを垂れ示されているのではないかと考えるんです。

じゃあ今回の震災で不幸にも無くなられた方はどうなのか。僕は、我々が垂れ示されていることを命をもって教えてくれているんじゃないかと思います。自己犠牲というか、人を一生懸命助けながら、自分が津波にのまれていったとか、「避難して下さい、避難して下さい」と命の危険を顧みないで広報しながら、気の毒に津波にのまれていったとか、そういう人がいっぱいいる。そういう人を見ている人もいっぱいいる。

お布施という言葉がありますよね。お布施ってお金を出すのがお布施というふうに思われているけど、お金だけじゃない。ボランティア活動というのは身施。和顔施と言って笑顔を施すとか。上座施というのは上座を人に勧めるとか、「施」がつく言葉は色々ある。一番高尚なお布施というのは何か分かりますか？ 捨身施と言うんです。捨身施というのは、身を捨てる施し。今回の大震災で自己犠牲にあった人達というのは、もちろん自己犠牲を考えながら亡くなっていったわけではないけど、神仏のそういう垂示、教えを彼らが具現している、体でもって現している、そうじゃないかと最近考えています。

じゃあ僕らの使命は何だ？ 文明を転換させていく、新しい世の中に転換させていく、このことを僕らはしていかななくてはいけない。そうすることによって、亡くなった人達の思いが少しでも癒されるとか報われるとか、そういうことではないか。

私は「志」というテーマの中で、この間「えー？」って本当にびっくりしたことがある。実は6歳の子の

書いたお別れの言葉というのがある。あまりに自分が感動したものだからお話をさせていただきたい。6歳の子供、小学生だけど、保育園を卒業した当時の園長先生が亡くなった。それで亡くなった時にお別れの言葉を述べているんですが、その言葉がすごい。ちょっと読んでみます。

「お別れの言葉」

園長先生、私の声が聞こえますか。2歳10ヶ月の時、保育園に入ってから漢字、算盤、諺、俳句、花園文庫、伝記など、園長先生には沢山のことを教えていただきました。毎日、一生懸命勉強して、南宋の文天祥の生氣の歌を暗唱できるようになった時も、算盤の大会でトロフィーをもらってきた時も、園長先生はとても喜んで褒めて下さいました。

それから園長先生は色々なところに連れて行って下さいました。北海道巡歴研修でクラーク博士の像の前で「青年と大志」を朗読したこと、デパートの軒先で野宿をしたこと、北陸巡歴研修で永平寺で座禅をしたこと、橋本左内の銅像の前で啓発録を読んだこと。沢山の楽しい思い出があります。他にも親子教室での遠足、運動会、お餅つき、立志集、卒園式、小音楽会、桃太郎の劇など。

園長先生に教えていただいた素晴らしい思い出が沢山できました。これから園長先生は天国に行ってお私達のことを見守っていて下さい。私達は園長先生に教えていただいたことをいつまでも忘れず、深く探って強く引き出す人になります。天から受けたものを天に報いる人になります。そしてこの世に役立つ人になります。園長先生、ありがとうございました。」

平成15年11月23日 園児代表 ○○○○

僕はびっくりした、6歳ですよ。2歳10ヶ月でこの保育園に入って、これだけのものを書ける。インターネットで「6歳児の書いたお別れの言葉」で出てきますから、是非検索してみてください。

僕が皆さんに何でこの話しをしたかという、こんな子ども達を育てていかななくてはいけないんじゃないか、そういう子どもを育てられる人達に我々がなっていかななくちゃ駄目なんじゃないかなろうかということ。これからの日本、これからの青森を変えていくには、若者に託していくしかない。

今は平成の維新だと言われています。幕末、明治維新の時代に活躍した人は沢山いるよね。でも皆20代、30代の若い人達を中心だった。今回の大震災をきっかけにして、我々も平成維新の気概を持っていかなくちゃいけない。これから6ヶ月、そういう思いで一緒に頑張っていきますのでどうぞよろしくお願い致します。

□講話

講師 野田一夫氏 (平成20~22年度「あおり立志挑戦塾」塾長、財団法人日本総合研究所会長)
題名 「人生も一大事業だ！」

皆さん、こんにちは。

私は、平成20年度から22年度まで3年間、この塾の塾長を勤めてきました。もう今年で84歳です。後継者になった天明塾長は、私の人生で会った中で最も人柄が良く、しかも立派な良心と高い見識を持っておられる方で、私は非常に満足しリタイアしたわけです。

今日は、「人生も一大事業だ！」というテーマ。非常に僕に適したテーマだと思います。この立志挑戦塾の皆さんにもじっくり考えていただきたいテーマだ。皆さんは、何かを自分で創り上げようという気持、覚悟を持ったことがあるか？ どうだ？ 僕の質問に対してはイエスカノーしかないんです。何となく気が付いたら今25歳になったとか30歳になったとかいう人と、子供の頃にこうなりたいと思っていて、だから今の自分がこうだと思ふ人と2つに1つしかない。どっちだ？



大事なものは主体性を持っていることだ。主体性というのは自分の人生に責任を持つことだ。自分自身の人生、1回しかないということをはっきりと認識しなくてはいけない。当たり前のことだ。たった1回しかない人生なんだと毎日自分に言い聞かせ、念仏のように唱える。自分自身の職業として納得できる人生を送らなければ。今の職業

が本当に納得できるものか、無為に生きていないか心底真剣に考えるんだ。



もし君達が死んだら惜しんでくれる人はいるか？ 自分が今、死んだ時に困る人は誰だろう？ 書いてごらん。自分がもし明日死んだら困る人、多いか少ないか分からないけれどもね。人間の生きているという意義は、自分が今死んだ時に困る人、悲しむ人、惜しむ人がいるかいないかなんだよ。君達の顔を見ていると、たった1回しかない人生というのは、僕が感ずるほどの重みを感じられない。君達が、40歳、50歳、60歳になった時に自分の人生を振り返り、情けない人生だなと思って残りの人生を生きたいか？ 偉くなれとか有名になれというんじゃない。

あの人がもうこの世にいない、本当に涙が出て悲しくて、泣けてしょうがないと。死んでからでも何かがあると、「ああ、あの人が今いたらなあ」と。こんな風に思われる人は素晴らしい人生を送ったんだ。無名でも貧乏でもいい。その人は立派な人生を送ったと僕は思う。僕もそういう風な人生を送りたいとずっと努力をしてきた。

この年になると死ぬということに対する恐怖感は無い。なぜかと言うと、同世代を生きた人間の多くはあの世で待っている。待っている人がいるということは、この世で僕が作った宝なんだ。そうだろう？ 友達も誰もいない、家族から見放された人はあの世に行ったら誰も待っていないし、待っているどころか「ここだけ（あの世）には来てくれるなと思ったら、お前来たな」ということになるじゃないか。そうじゃなくて、皆が歓迎をして迎えてくれると思うと、あの世に行くというのも楽しいじゃないか。まさに、勝利の将軍が凱旋するような感じで行けばいい。

僕が言っているのは口先じゃない。本当に心から皆が悲しんでくれる人生とはどういうものだ？ そんな人生は偶然できるものじゃない。相当な時間がかかって、実績が上らなければできない。相当な時間をかけるということは、自分自身が何かを計画して、そしてその計画を実践する努力をしていくということだ。

自分がやりたい事、これは君達の中にある。今やっている仕事がフィットしているかどうか、フィットしてなくてもどうやればフィットしていくか考える、フィットしていない状態はただ願望を背負ってる状態でしかないということだ。どう考えても、今も将来も自分の好みにあわないと思った時、転職というのをやっぱり考えた方がいい。しかし戦略的に考えることだ。それは自分にとって有利な時期に、有利なような条件で転職するという目標を立てることになる。

問題は、君達に何かやりたい事があるのかということだ。やりたい事というのはアイデア、発想なんだ。発想というのは誰でも持っている。たとえば、子どもは現実を良く知らないから、「私はスチュワーデスになりたい」とか「僕はパイロットになりたい」とか「学者になりたい」とか簡単に言える。実現性が無くてもいい。それは夢だ。願望だ。夢は誰でも楽しいんだ。いい夢を持っていると顔もにこやかになる。しかし、大人が、あの人はいつも夢を見ていると言われることは、褒め言葉ではない。現実性が無い。少なくとも自分が大学生になったり職業に就く時は、とりあえず職業に夢を託してはいけない。



人生も一大事業だということ。一体、事業って何だ？ 単純にこうしてみたいと思うことか？ これは子供の夢だ、もう君達はそんな年ではない。夢を見るんじゃなくて目的を考える。こういう事をしよう。こういう事をするためには何が必要になって、どうやって進めていけばいいのかわかるように明確にすること。少なくとも人間の行動の中で、相当のことは計画がなければ無鉄砲だし、実現しないし、実現してもひどい目にあう。自分の発想というのがあるだけでは駄目だ。発想を実現するためには何がネックになっているかを自分で分かって、それを確かめる意欲や仲間がいなくては駄目だ。

構想とは何だ。一番簡単に定義すれば、素晴らしい発想を計画にまで落とし込んでいくプロセス。どんなものでも、責任をもってやる仕事は全部この構想が必要だ。計画とは、目的を達成させるために障害となる主要なものが全てクリアしているという状態だ。収支はどうか、時間はどうか、法制度はどうか、技術の進歩はどうかなど色々な条件があって、これらを全部頭の中に入れておかないと計画というものはできない。どういうわけか日本の高等

教育にはこれが欠落している。構想を実現するには時間もカネもかかる。いろんな組織も必要になってくる。それを考え出すということは、すごく人生に意義がある。実現する、しないじゃない。そういうものを持って生きている者とそうでない者の違い。生きている間に、何をしたいかを常に考えている者とそうでない者の違いなんだ。

成功した経営者で活力の無い人はいない。性格的に暗いとか非常に真面目という違いはあるけど、根底に活力が無ければ事業なんか成功できない。君達が取引をする時に、融資をしようという時に、創業者に会った時に、まずその人が活力があるか無いか非常に大事だ。どんなに学歴が良くてもどんなに性格が良くても創業者には向かない。理想があっても活力の無い人は実現できない。逆も真だ。君達は1回しかない君自身の人生をまず構想するんだ。職業はどうだっていい。しかしその人間がそれを信じて生きている限り、その人間は見た目は大人しくても会った時にやっぱり迫力があるんだ。活力とは、その人間が内に秘めた気概だ。

自分の志を実現する上で、パートナーをどうするか。その人間が信頼できるかどうかを基準にした方がいい。特別な人でなくていいし、その人が志を持っていなくてもいい。自分の志に非常に感動をする、と同時に誠心誠意、協力してくれる人がいればいい。個性が強い人間同士というのはぶつかるんだ。だから、松下幸之助さんには高橋荒太郎という大番頭がついていたじゃないか。本田宗一郎さんには藤沢武雄さんがいた。やっぱり本気になって自分がある企業を興そうと思えば、必ずそういう女房役が出てくる。

成功した経営者が一番よく使う言葉は運という言葉、しかしその運はね、偶然的偶然ではないんだ。必然的偶然なんだ。日頃は何も感じないけど、自分が関心のあるところはすぐに感じるんだ。見えてくるんだ。心ここに在らざれば見えるものも見えずなんだ。つまり、構想を持っていない人間は何でも見過ごしてしまうが、持っている人は決して見過ごさない。キャッチする。君達にはまだ必然的偶然をつかむチャンスは無いだろう。それを求め続けるんだ。求め続けていく人間には、神が、天が、人がそういう必然的偶然を与えてくれる。何も求めない人間に訪れる偶然というのはね、棚からぼた餅なんだ。そんなものは降って来ない。たまに降ってくると、それでいい気になって、お腹を壊したりなんかする。必然的偶然はね、特定の人だけに与えられるものであり、懸命になって何かを求めている人間だけに与えられる一つの榮譽なんだよ。



今、自分でこういう事をしたいと持っている、思いがけないヒントがある。人生が開けてくるんだよ。それは自分で開くんだよ。これから半年の間に、君達の心の考え方に革命が起きれば、この立志挑戦塾の意義がある。君達の人生に栄光があるように祈念します。ありがとう。

□グループディスカッション

テーマ：「個人の志と地域の発展について」



論点1：地域を発展させるもの

- 仕事愛、地元愛、人間愛の相関
- 仕事、絆、人の相関

論点2：地域の情報発信

- 農産物の生産過程を見せる。
- 国内外へのPR不足（YouTube、ドラマの活用）

論点3：絶望感、戦意喪失の原因

- 旧システムの打開
- 考えることについての疲労感

ファシリテーター

青森公立大学（栗村圭一主任研究員、長岡正次専任研究員）